



Cat.No. J864 / J886

クイックジェル AMY試薬

アミラーゼアイソザイム用試薬



● 試薬の特徴

- ・ 反応生成物は不溶性のホルマザン色素です
- ・ 支持体としてクイックジェル（アガロースプレート）を使用します
- ・ 従来法（セルロースアセテート膜・ブルースターチ法）、及び阻害法との相関が良好です

● 対応機種

- ・ 全自動電気泳動分析装置「エパライザ2」 全自動（連続可）
- ・ 全自動電気泳動分析装置「エパライザ2 ジュニア」 全自動
- ・ デンシトメーター「クイックスキャン」 的手法

● 試薬・支持体

Cat.No.	品名	規格	構成
J864	クイックジェル AMY試薬	10枚用	基質剤 1mL用×10本 溶解液 10mL×1本
J884	クイックジェル AMY試薬	45枚用	基質剤 3.5mL用×9本 溶解液 32mL×1本
J720	クイックジェル AMYプレート	83mm×129mm×10枚	支持体 10枚 プロッター 20枚
3424	SPEノーマルコントロール	2mL用×10本	

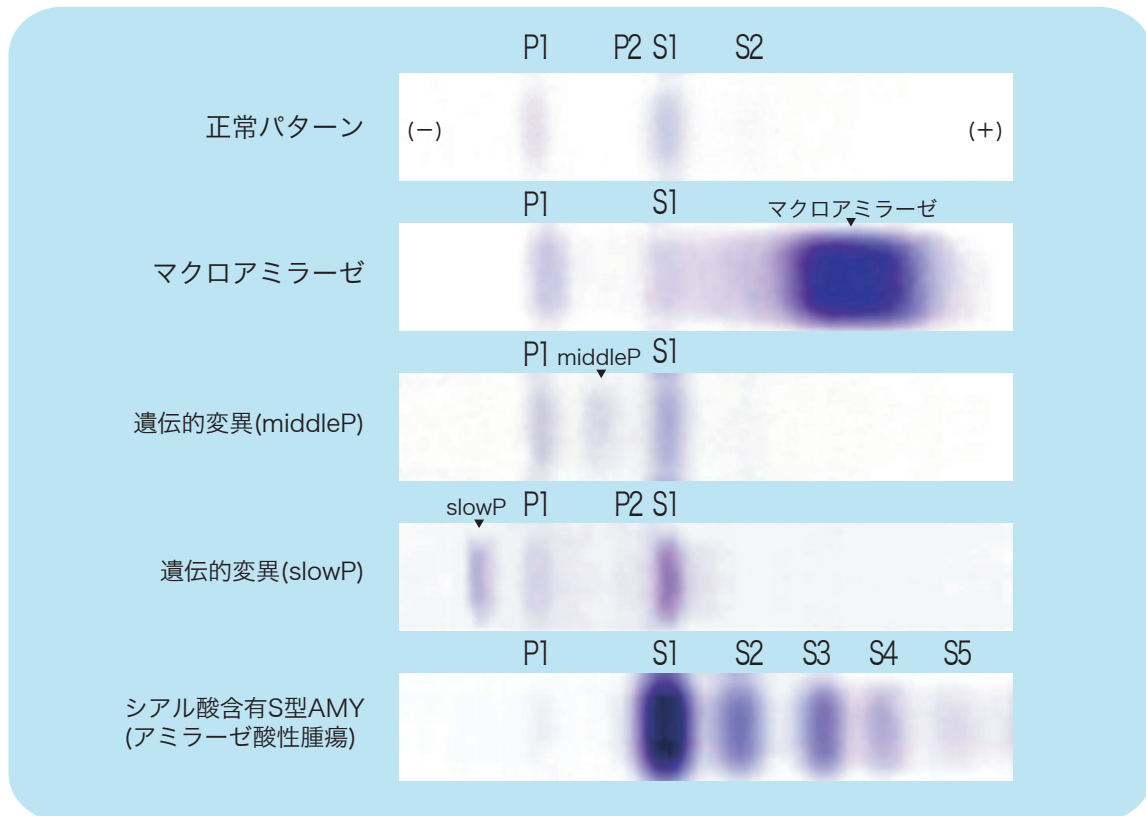
クイックジェル AMY試薬

アミラーゼアイソザイム用試薬



『免疫阻害法の結果が臨床診断と乖離』

マクロアミラーゼは、抗体による阻害が不十分なため誤差の原因となります



アミラーゼには、膵臓アミラーゼ (P-AMY) と唾液腺アミラーゼ (S-AMY) のアイソザイムが存在します。P-AMYは、急性膵炎・慢性膵炎の再燃・膵臓癌等で上昇し、S-AMYは、唾液腺疾患・外科手術後・アミラーゼ産生腫瘍 (肺癌・卵巣癌・骨髄腫)・肝胆道疾患等で上昇すると言われています。

P-AMYの迅速検査としてS-AMYを阻害する免疫阻害法が用いられていますが、臨床診断と乖離する症例が報告されています。S型マクロアミラーゼが出現すると免疫阻害が不十分になり、P-AMYに正誤差が生じますので、電気泳動法での確認が必要となります。

電気泳動法では、マクロアミラーゼ以外にも遺伝的変異や腫瘍産生アミラーゼも確認することができます。

参考文献

- 1) 大槻眞, アミラーゼアイソザイム, 日本臨床 53, 1184-1191 (1995)
- 2) 中林徹雄 他, モノクローナル抗体を用いたP-AMY測定試薬の検討, 臨床検査機器・試薬19, 671-676 (1996)
- 3) 高木康, アミラーゼが大きくなると尿にもれなくなる, 検査と技術 44, 884-887 (2016)